

岩内町総合振興計画策定審議会（第5回）記録

1. 日時場所

令和3年6月1日（火）午後3時00分～午後4時00分
岩内町役場 3階 委員会室

2. 出席者

委員 18名（別紙委員名簿のとおり）
※アドバイザーの幾島地域創生部長は公務により欠席
町側 木村町長
事務局 中川部長、久崎課長、松田主幹、草嶋係長

3. 中川部長より挨拶

本日はお忙しいところご出席を賜りありがとうございます。定刻前でありますけども、本日予定されている委員の方々が揃われましたので、進めさせていただきたいと思います。

本日の会議開催における、委員の出欠につきまして、後志総合振興局の幾島部長が公務のため欠席と連絡を受けておりますのでご報告させていただきます。

なお、本日の議事進行につきましては、加藤会長にお願いしたいと思います。それでは、加藤会長よろしくお願いたします。

4. 協議事項

(1) 岩内町総合振興計画（案）について

松田主幹、草嶋係長より説明。

【質疑】

Q 委員

早速66ページの中で、修正あったと思うんですけど、災害時における経済活動ってどんな事を言うんでしょうか。

A 事務局

委員からは66ページに追加させていただきました、災害時における経済活動機能維持、こちら具体的にどのようなものを想定しているかっていう事なんです、こちらですね、災害時におけるサプライチェーン、まあ流通ですとか、そういった物が滞らない、滞らないような対策をですね、各流通機関ですとか、そういったものと事前に包括の協定を結ぶですとか、そういったものを想定しており、災害時に物資などがしっかりと届き、そういった地域の経済活動、品不足ですとか、商品不足そういったものにならないようまずはそういった災害直後における突発的な対応を想定しております。ちなみに、個別計画であります、岩内町の国土強靱計画、こちらの方にですね、具体の案をですね、実は掲載と言いますか、すでに策定させていただいているところであります。

Q 委員

そうすると、この記載の方法が適切なのかどうかという、ちょっと、災害時というと災害終了後の話が出てきているでしょ、今言ってるのは。そうすると、災害時じゃなくて、災害時が収束した時点じゃない。物資がどれだけ流通されるのかという部分だと思うんで、町内の経済活動じゃなくて物流ですよ、経済活動じゃなくて。

ちょっとそれね、ここで書かせるのが良いのかどうかというのがあるんですけども。ごめんね。

A 事務局

あくまでも、この目標4の持続可能なまちづくりの位置付けとしてでは、防災の観点が強いのページ、いざという時の備えの強化という事で、発生した直後の切り口で書かせていただいております。なので、災害時というか災害直後というイメージがあるんですが、実際に本当にその災害が落ち着いて、本当に規模にも因るんですが復旧ですとかかなりますと、またちょっとそれは別のフェーズになってきますので。

Q 委員

災害時にものを運べるかっていったら物を運べないでしょう。災害が収束しないと、物流なんか届くわけないから、災害時にわざわざ来る人なんていないんだって。そうなって、災害時にいざ地震に津波が良いのか分からないけども、そこに物資を持ってくる人なんていない。ボランティアで持ってくる救援物資だとか色々運んでくるのはあるのかもしれないけども、ここで経済活動が発生するかって言ったら発生しないじゃない。あくまでも経済活動が発生するのは、災害が収束した時点で、経済活動が出てくると思うけども、災害時に経済活動が発生するのはあり得ないんじゃないか。

今、現場で地震起きてるのに、誰も物を持って家に来る人は誰もいないから、経済活動って起きないんだと思うんです。これが悪いって言ってる訳じゃないよ、書き方さえもう少し注意してくれれば良いんじゃないのかっていうだけの話で言ってるんで。災害時には経済活動って無いって思うので、直せるなら直していただければと思います。

A 事務局

委員ありがとうございます。経済活動という表現が、少し災害時にはあまりマッチしないというご指摘だと思いますので、あの、ちょっと文章も含めてですね、再度表現を考えたいと思います。ありがとうございます。

Q 委員

えーと2点ほどあるんですけども、まず1点はパブリックコメントの意見の方であります。梶浦造船所の有効活用って書いてあるので、えーと、これはあの計画の中の「港ふれあい観光拠点ゾーン」として、という区分で、今後その有効活用を進めるという事だったんですけども、えーと以前数年前に、海同冷蔵の跡地をその商業施設にしたいと言った時に、それが通らなかったっていう件がありまして、例えばこの「港ふれあい観光拠点ゾーン」として、進めていくと言った場合、例えば当時港湾エリアだからそういった事が出来ないって言うだけでこう止まったものが、今後は、例えばそういう商業施設だったり、観光施設だったりという、その、何て言うんだらう、ちょっと規制がちょっと緩和されるっていう風に考えた方がよろしいでしょうか。

まず1点目。

A 事務局

委員からは、梶浦造船所の有効活用並びに土地利用の観点から「港ふれあい観光拠点ゾーン」に関するご質問です。

こちらに関しましては、町の土地利用とはまた別にですね、国の臨港分区と言いまして、やはり、港として、あのエリアー帯に、実は帯が掛かっている中で、委員仰ったとおり、海同冷蔵は、あくまであそこは「倉庫」という位置づけという、用途が決まっているという風に私も認識しています。今後その土地の用途と言いますか、分区を変更する事につきましては、今後さらなる、色々議論ですとか、あとは、町だけでは決められない部分が多くあると認識しております。

ただ、周辺地域さらには道の駅の検討なんかも、その中で広くエリアとして、駅前周辺、港エリアというのは、町の中でも重要なエリアだと認識しておりますので、今後さらに、本当にそういった、土地をどう変えていくかというのは、これから検討されていくものかという風に考えております。

Q 委員

それともう1点なんですが、えーと、KPI の評価の時間軸が、今一見た感じ読めてこないのがあるんですけども、どういったスパンでその評価をして、回していくのかという所がお聞きしたいです。

A 事務局

委員から KPI の時間軸の件についてのご質問でした。

今回の KPI については、まずは各年度、それぞれの年度で所管において、個別計画において毎年ローリングをしていって評価をしていきます。この総合振興計画自体は、前期5年、中期、えー、後期5年の10年計画になっておりますので、毎年度所管でローリングされたものを、この計画5年後フィードバックしていったもので、達成状況を把握していったそれを、後期の実施計画の方に表す、後期の実施計画の方に持って行って、再度今年度の進捗状況を把握して、結果最終的に10年後の目標値・達成値という風に整理していきたいと思えます。

Q 委員

えーということは、1年毎に評価をして、1年毎の評価を記録として残しておきつつ、5年目で一旦修正をかける、で、10年目に最終的な達成出来たか出来なかったかっていうのを出す。そういうスケジュール。

Q 委員

えーまず、成長戦略、まあ SWOT 分析っていうのがあるんですけど、ここに成長戦略と改善戦略という、色々4種目に分かれてあって、具体性に欠けているものと、聞けば分かるもの、例えば、移住定住の促進というのは、これは何を実際にするのかという、枝葉の部分が見えてこない項目なので、こういう事をするために、この項目があるというのが、可視化出来なければ、今後それが実現されているのかどうかっていうのが、中々見えてこないかなと思っていて、例えば、地域おこし協力隊の誘致、69ページなんですけれども、こういったものは、誘致すればこれは叶っているんだな、実現しているんだなというのは見えるんですが、それ以外の関係人口の創出とか、実際に何を指してどのように達成していくのかというのは、もう既に共有されているものなのかどうかというのを、ちょっとお伺いしたいと思います。

A 事務局

委員からは、各目標ごとに設定されてます、基本施策や基本項目、まあこれの内容に関するご質問かと思えます。基本施策につきましては、大きく目標の下に、4つ、5つとぶら下がっておりまして、その下に施策項目として、今委員が仰ってくれましたとおり、移住定住の推進ですとか、地域おこし協力隊の誘致、こういった施策項目が掲げられております。

実はこれ、表現、計画としてはですね、ここまでの方向性を示す基本計画なんですけど、積み上げ方としては各所管からですね、しっかりと事業に関する積み上げをいただきまして、それを束ねてですねこの施策項目という設定をしていますので、各所管、さらには個別計画、この中にはですね、実際にやる具体的な事業名ですとかそういった予算に関するものというのは、各所管ではしっかりと、当然積み上げた上でこれが出来ているという風にご認識いただければと思います。

Q 委員

ちなみに、それは、町民レベルでどこかでクリックすれば、まあネットだとかで確認できるものになっているのでしょうか。

A 事務局

その計画、計画によるんですよね。ほぼ全ての計画が公表、3ページになるんですが総合振興計画が最上位計画ということで、その下で、各分野それぞれにおける個別の計画が作られています。ほとんどがですね、町のホームページでも公表されておりますし、今丁度、更新で変えてる時期という計画もあるんですが、まあこの計画の中には、具体的な施策、事業ですとかそういったものが掲載されておりますので、そちらと連動しているという形でお考え頂ければとおもいます。

(2) 岩内町総合振興計画答申案について

事務局

それでは、私の方から説明させていただきます。皆様には、お手元の配布しております資料3をご覧ください。資料3につきましては、岩内町総合振興計画案について(答申)でございます。昨年になりますけども、令和2年8月20日に本審議会に諮問されました、総合振興計画ですけども、協議事項1におきまして、委員の皆様方より総合振興計画案について一部文言の宿題はございますけども承認いただきました。先ほどの資料1の計画冊子にですね、この資料3の文書を添えてこの後町長へ答申する事となります。

健やかなまちづくりと、目指すべき町の姿を実現するため、町民と行政が一体となったまちづくりが進められる事を願い答申するものでございます。

委員の皆様におかれましては、このコロナ禍の各種制限がある中にも関わらず、貴重なお時間をいただき、本審議会に積極的にご参画いただき誠にありがとうございます。

この町の今後10年の未来について、多くの前向きなご意見をいただきました事、この場をお借りいたしまして重ねて感謝申し上げます。ありがとうございます。

我々、事務局といたしましても、行政の立場として健やかなまちづくり、そして目指すべき姿の実現に向けまして、引き続き町民の皆様と共に施策の推進に努めて参りたいと思っております。

以上で、協議事項(2)の岩内町総合振興計画答申案についての説明を終わります。

(何名か一言ずつ)

委員

諸先輩方に物言うことは無いんですけども、岩内町民として、ここで事業を行っている事業者として、岩内という場所は、 $1 + 1 = 2$ というよりかは、 $1 + 1 = 100$ にも 200 にもなるような地域だと思っているので、ただ、その層が中々繋がっていなかったりだとか、地域を跨いで何かしていくというところに、まだ気持ちがいってないのかなと、ちょっと岩内に来てからしばらく感じていたところであるんですけども、こういった岩内町総合振興計画っていうもの、今後10年の事を考えていくっていう場合は、私にとってすごくありがたい機会だったので感謝しております。ありがとうございます。

一番大事なのは、子どもの存在だと思っているので、何事も子ども中心に考えていきたいなというのは、私の考えの第一にあるものです。今後ともよろしくお願いいたします。

委員

協会の事務局ということで、今回で総合計画案が示されて、これが最終という事で答申される事になります。まちづくりに向けての動きが、これで活発化というか、一段落上がっていくのかなと思っております。その事によって、スポーツの分野が発展していくことを願っております。スポーツの分野もちょっと高齢化とか、色んな部分で、ちょっとこう、協会事務局としても少し停滞している感じもありますので、今後のまちづくりの発展に向けて、併せてスポーツの分野も発展することを願っております。

委員

長い間お世話になりました。ありがとうございます。今後ちょっとまあ、色々、時代が色々転換するのかなという、節目にあるんですが、皆さんで地方ならではの強みを活かして、協力して色々乗り越えていけたらと思っております。ありがとうございます。

委員

今回の計画策定委員会に携わらせていただきまして、大変ありがとうございます。私出身がですね、青森の弘前、あそこも観光が、今は家は札幌にあって、2年前から岩内に来てるんですけども、色々岩内にも魅力を感じてまして、それをどういう風に発信していくのか、我々、協会としてどういった事が出来るのかというのを考える時間になりました。これからも、非常にこの点については携わっていきたいと思っていますので、今後ともよろしく願います。

委員

地域を支える人づくりという部分のことで少しだけ。あの、次の2番目の地域を支える医療介護福祉という部分で、若干私も関わってるもんですから、やっぱり、健康で元気に過ごしていくということが、人間として当然、そうなりたくなっている風に思いながらいるんですけども、やっぱりその中では、ボランティア含めた地域を支える人づくりが重要かと思えますので、是非あの、この総合計画含めてですね、役場の職員、あと、関連する皆様には是非その辺の事をこれからも、力づけてくれれば良いかなと思いました。

委員

はい、ありがとうございます。随分飛ばした感じもしますが。あのこれから10年、10年後の未来を考える会という事で、2031年の未来を考えながらこれを読ませてもらうながら協議してきたところですが、私は多分、恐らくこのままいくと49歳になる未来があって、息子はおそらく17歳か18歳になろうかなというところなんです。その先を10年後の未来っていうのはどうやって描いていかなきゃいけないのかなって考えた時に、先ほど委員も仰ってましたけど、みんなで協働して岩内町の垣根を越えながら、ローカルビジネスをしっかり築き上げていかなきゃいけないのかなという風に考えています。その中で、やっぱり子どもの教育だとか、今ある産業が衰退じゃない、成長じゃないけど衰退じゃないというか、無くならないというかですね、もうやっぱり考えていかなきゃいけないのかなと、でやっぱり2030年にSDGsの最終目標があるので、ここでやっぱり関わっていくものが、2030年を考える未来なのかなと思います。共和町の道路があと5年後くらいに出来上がって、恐らく新幹線も10年後くらいに出来上がっていくので、そういう未来をこれからも描いて、私たちは生きてかないといけないのかなという風に考えておりますので、大変貴重なお時間ありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。

委員

長い間ご苦労様でした。ちょっと一つだけ。意見募集の中に、2、3色々あってます。自動車学校のこと、フェリー埠頭のことも含めて、それから梶尾造船所のところ、このものについて町の方では、個人的なものだとか、岩内町にない、その中でタッチが出来ないという話があったんですが、私もこの岩内に帰ってきて思うのが、岩内の町って、他から来た人見ると、例えば共和町の梨野舞納、あの地区は岩内と一緒に感じている人が沢山いるんですよ。岩内だけを考えると凄い無いものが沢山ある話になってくるんだと思うんですよ。

例えば自動車学校についても、僕らがここで高校を卒業して、最初に免許受けたのも岩内の自動車学校です。やっぱりそういう部分でいくと、いわゆる免許取る、それから更新時講習を受ける。それにしても、岩内自動車学校というのは、岩内のほとんど、ほとんど岩内のものじゃないのかなと。それは、確かに共和町は在るんですけども。やっぱり住人の生活、そういうレベルを考えると、何かしら必要なものじゃないのかなと。だからそれは、共和町と、まあ確かに共和町に在るんですけども、出来るんなら共和町と岩内町と一緒にあって、どうにかして、住民生活の足下を補完するためにも必要な部分じゃないのかなと。

例えば、そういうものが第一次産業農業においても、多分岩内町においては、農業という部分は非常に少ない部分だと思うんですが、そういう部分でも共和町さんは、例えば隣の共和町の、共和町は農業ですから、第一次産業をそういう部分で含めて、何かしら地域として何かできる、まあこれからね、そういう部分が凄いい必要になるじゃないかなっていう気はしています。

ただ、今回岩内町の総合計画ですから、町としてのその計画は必要なんですが、やっぱりその先に視点、先としては地域としての一貫性という部分は、どっかに持ちながら出来たら、これから進んでいって貰えたらなという気はしています。そういう部分が何かこちら辺にちょっと、盛られれば良いのかなと思ったんですが、今回は岩内町のあくまでも10年間の総合計画ですので、そういう部分は別個としても、やっぱり観光の面においても、この部分では4か町村さんここをベースにしてね、一つの観光考えないと、岩内町だけでは非常に難しい部分があると思いますので、そういう部分では4か町村さんそれぞれもうちょっと中で、色んな、福祉もそうだと思うんですけど、一緒にやる部分が必要なんでないかなって言う気はしています。そういうところはこれからね、そういう部分を考えて、色んな仕事をして頂ければ良いのかなと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

委員

ただいま、委員が仰ってた岩内の土地だから、共和の土地だからと言ってると、中々こう進まない事って言うと、ふと考えてみると結構あるなっていう風に思ったんですね。

例えば、岩内は海の町と言う割には、今海水欲出来る場所が無いとか。何かそういったところも、その例えばフェリー埠頭の堤防から向こうは共和町だから、とかって言う状態ですって来ているんですけども。今後10年先、20年先っていう事を本気で考えるのであれば、我々世代から隣町共和町にも提案するとか、協議を進めるとか、そういった何か一番最初の糸口を作る世代なんではないかなと期待しておりますので、今後、その他町村との連携なども含めて、個々の地域が益々良い方向に向かってくれたら良いなとおもいます。長い間ありがとうございました。

委員

いつも色々とね、他の方々の意見を聞きまして大変参考になってます。

それで、私方の会にも、こういう様な意見が沢山出てくれるように、皆さんと話し合って進めたいと思います。よろしくお願ひします。有り難うございました。

それとよろしいですか。えーとですね、この冊子の後ろの方の絵ありますよね。これは何処で撮れたらこういう様な景色が撮れるんでしょうか。

委員

これは実は僕が撮ったもので、えーとこれはですね、深夜に雷電の国道淵ギリギリの所に三脚を立てて、赤道儀という星を追尾する機械を使ってですね、この星を撮りました。

会 長

この度、岩内町の将来に向けたまちづくりを実現するための総合的な指針としまして、町の望ましい姿を住民の皆様と共に想像し、住民と行政の共通の目標示すためにこの場で策定して参りました。

岩内町は、海とか山の本当に大自然に恵まれた中にありまして、先人達が築き上げてくれた素晴らしい歴史と文化があると思います。あの、伝統文化はしっかり受け継ぎ、今の時代にしっかり足跡を残して、本当に住んでいて良かったと言える町にしていく事を、本当に皆さんのお知恵を借りながら、進めていきたいと思っております。

本当にあの、総合振興計画策定委員のメンバーの皆様には本当にお世話になりました。ありがとうございました。

事務局

松田主幹説明。

5. 答申

【町長入室】

事務局

草嶋係長説明。

【会長から町長へ答申を手交】

事務局

草嶋係長説明

(町長より一言)

町長

皆さんこんにちは。

只今、会長から岩内町総合振興計画の答申をいただきました。

審議会委員の皆様には、昨年の8月20日から、期間にして約9ヶ月、回数にして5回審議会を開催していただき、慎重かつ真摯な議論と、様々なご助言ご指導いただきましたことを心から御礼を申し上げます。私は、これまで総合計画、いくつか自分も職員として携わって参りました。今回のこの計画、その中でも、町民の皆様の声聞く努力を凄くやってきたそうした計画だと思っています。アンケート、それからワークショップ、町民の皆様が、今、岩内町のどこを素晴らしいと思っているのか、どこがちょっと不安だと思っらしているのか、そうした思いを聞き取りながら、今後10年間町がどうしていかなければならないのか、そうした判断の基になる計画が皆様の審議を経て完成したものと思っています。

しかし、この計画、総合計画はよく言われますけども、作る時までが大変で、お金も掛かって、作った後は誰も見ない、そんな風に揶揄される事もあるんです。

今回の、この計画については、これが10年後の岩内町になって欲しい姿だという事で、私は、職員がいつもこれを見て、初心に戻り、実施する計画はどうあるべきかというのを考えてくれるものと信じておりますし、皆さんのこの思いのこもった計画をそうした形で活かしていきたいと思っています。

この計画につきましては、この6月開催されます岩内町議会第2回の定例会に議案として基本構想部分を提出させていただき、議決をいただいて本格的なスタートとなります。皆様には、引き続きこの計画がきちんと私たちの思いを基にちゃんと進んでいるのかと言う意味で、お目付役としてご助言ご指導を賜りたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

結びになりますけども、この審議会を通じて、様々な皆様にご意見を頂きましたことを、重ねて感謝申し上げます、甚だ簡単ではございますが、私からのお礼の言葉とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

【町長退出】

事務局

松田主幹説明。